

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473100970	事業の開始年月日	平成17年7月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 しおさい		
事業所名	グループホーム港南		
所在地	(〒 233 - 0016) 神奈川県横浜市港南区下永谷4-2-31		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月15日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①医療と介護の融合を目的としており、隣接のクリニックとの連携主治医と24時間連携が取れるようになっている。ご利用者が安心して暮らせるだけでなく何かあった際は対応がすぐにとれるようになっていることで職員が安心して働ける環境を整えている。②毎日の入浴を実施することでご利用者の衛生面の確保をし皮膚の状態を確認することで褥瘡や傷を早期発見し、早期治療を行えるようにしている。③ターミナルケアを行っており、主治医や看護師との連携を行うことでご家族様とご利用者が安心して暮らせるよう支援をしている。④コロナ・インフルエンザが流行しているがご利用者がご家族様に会えることが精神的な安定にもつながる為、以前はいつでも予約等はせず会いに来ていただいていたが、現在は電話予約していただき、感染症対策として検温・消毒の実施、マスク着用の上短時間で天気が良ければ外での面会を行い、居室では換気をしながら少しでもご家族様との時間を作っていただいている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年11月6日	評価機関 評価決定日	令和5年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇医療と介護の連携

併設するクリニックの医師・看護師と24時間の連携を図り、定期的な訪問診療や健康診断により健康状態を把握しながら、適切なケアサービスの提供に努めている。医療と介護の連携を図り、終身型のグループホームを目指して、地域との交流を心がけている。家族からは、感謝の言葉が寄せられている。

◇清潔で安心できる介護サービスの提供

衛生面から支援を行うため、希望による毎日の入浴を可能としている。一日6回以上の排泄の介助を行うなど、必要な場合は随時行っている。居室のシーツ交換は週1回以上実施している。生活のリズムに合わせて、毎朝夕の着替えを行うよう配慮している。

【事業所が工夫している点】

◇食事提供

職員は、食材を近隣スーパーで求め、利用者に合った調理(刻み等)を行い、美味しく、暖かい、楽しい食事になるように支援している。可能な利用者は、下ごしらえの手伝いや食後の食器拭きに参加し、活力を生かしている。

◇室内体操の工夫

外出支援や気分転換を図るため、事業所内でDVDを使い、横浜市の「ハマちゃん体操」を行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム港南
ユニット名	海

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を目につくところに掲示して毎日確認を行うことで共有し、実践している。	<ul style="list-style-type: none"> ・五項目で示された理念について、「医療と介護の融合」を土台として、利用者と家族の気持ちを大切に、終身型グループホームを築くよう努めている。 ・理念の共有を図るため、キッチンに掲示して、日常の介護サービスにつなげている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり交流が出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの面会制限が解除され、地域とのつながりを徐々に再開している。グループホームの夏祭りは、今回、まだ開かれなかったが、自治会の夏祭りや映画鑑賞会に参加の呼びかけがあった。 ・ケアプラザからのイベントやフリーマーケットの呼びかけを大切にしている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを行っていたが、コロナの影響により中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響があり対面しての実施は行えていないが、書面での情報提供を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・7月及び9月は、コロナ感染の拡大防止のため、引続き書面報告となった。 ・会議内容を知らせる情報として、毎月家族に送付するお知らせの中に、月別行事や予定、利用者の様子を載せ、サービス向上に努めている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センターの方と情報の交換を行っていたが、現在はあまり行えていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市港南区とは、認知症や介護の取組みの指導を受け、協力関係を築いている。 ・介護保険関係の通知や手続き、高齢者支援の取組み、行政報告、ワクチン接種の推進など良好な関係が維持できるよう心がけている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の具体的な行為を張り出し確認できるようにしている。研修を通じて身体拘束の内容やを行っているケアが拘束に当たらないか確認しながら行っている。	・研修計画や身体拘束適正化委員会に基づき、職員同士で意見を出し合い、具体的な対象ごとに理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・同委員会は、2ヶ月ごとに開催し、決定内容は職員に周知している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、入浴時など不自然なけがなど無いか確認している。	・不適切なケアの取扱いや職員の疲労・ストレスに基づく利用者への防止対策について、虐待が見過ごされることがないように研修を通して学んでいる。 ・スピーチロックなど虐待を疑う行為は、直ちに対応を図り、職員には周知徹底を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて成年後見制度を学んでいるが、あまり活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改訂がある度にご家族様に説明し、サイン・捺印をもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際に話をさせていただし、意見があれば聞くようにしている。玄関に意見箱の設置も行っている。	・玄関の意見箱、訪問時の家族の意見をはじめ、運営推進会議に参加する利用者・家族の要望や意見を聞くようにしている。 ・利用者には、日常のやり取りから意見を聞くように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見できる体制をとっており話しやすい環境を整えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議やケアプラン会議において、職員が言いやすい職場となるよう努めている。 ・職員からの意見としては、利用者のケアや物品の購入や修繕の要望が出されることが多く、対応に努めている。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当や資格手当などを細かく設定し、スタッフの環境など考慮した休みをとれるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則は、事務所にファイルを備えて、給与水準、職場環境、健康管理など各自が向上心をもって働く職場となるよう整備に努めている。 ・管理者は、職員と懇談する機会を持ち、働きやすい職場となるよう取り組んでいる。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ等の影響もあり外部の研修に参加することが難しくなっているが内部研修を行っている。リモートでの研修に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、職員同士がケアサービスの向上を図るため、話し合いの機会の確保に努めている。 ・職員が勤務しながら研修を受けられるように、参加費用の負担や時間調整やローテーションの変更を図っている。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に行く機会が無くなっており同業者との交流があまりなくなっている。リモートでの研修の際にグループワークを行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会に来られた際に生活の様子を説明している。入居されたばかりのご利用者様はご家族様により詳しく説明を行っている。ご家族様の要望を聞き出来る限り希望に沿うようにし信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	調査票やご家族様・ご利用者様からの思いや希望を聞き、サービスの提供に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族に調査票等書いていただき、本人と家族の思いを共有している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活リハビリなど一緒に出来る機会を設けている。一緒に過ごしながらかご利用者様からも学び支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の状況など毎月コメントでの報告を行っており、面会時にも状況の報告を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を書くのを支援したりしている。電話がかかってきた際は取り次ぎ話をしてもらっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所については入居契時に把握している。コロナ感染対応の制限が解除され、家族や知人の訪問を大切に支援している。 ・馴染みの理容店や家族が同行する食事・買物が続けられている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が懸け橋となり、共に生きているという視点からお互いの存在を感じてもらえるよう支援している。レクレーションや行事など座席を考慮し利用者様楽しく会話できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的にターミナルまで行っている為、契約が終了することが亡くなっていることとあまり変わらない為、契約が終了するとあまり、支援等はなかなか難しいが連絡があった際は相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話から言語的・非言語的な両面から本人の思いを把握することに努めている。ご利用者様の意向を尊重し、自己決定できるよう声かけを行い本人の希望を優先している。	・利用者の思いや暮らし方の希望は、本人への職員の声掛けや家族を通じて把握するよう努めている。 ・意思表示が苦手な利用者や困難な利用者の場合は、日頃のケアサービスや会話や活動・行為の中からくみ取るとよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査票やご家族様からの話を聞き、生活歴など把握している。ご利用者様から直接聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態について日によって変わったり、朝・夕で変化するので注意して把握に努めている。日々の見守りから客観的に観察し、声かけにて本院にお意向を見極めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様や家族からの話を聞き、職員間での話し合いにより日々の生活状況を見ながらその時にあったケアの見直しも行っている。	・アセスメントを基に、また、医師、看護師、家族の意見を聞き、連携を図りながらケアプランを作成している。 ・ケアプランは、担当職員3人によるモニタリングやケアカンファレンスを通し、年2回、本人・家族の同意のもとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、サービス計画項目、日課など毎日記入を行い、情報の共有を行っている。普段と違う言動などは必ず記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族の意向を聞き、ご利用者様の状況を判断して会議などで議題に挙げて支援している。日々の変化を感じ取りその時に応じた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園に散歩に出かけたり、近くのスーパーと一緒に買い物に出かけたりしていたが、コロナの影響で外出が出来なくなっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックがある為、体調の変化があった際はすぐに受診できる環境がある。ご家族からの相談があった際には主治医に連絡が取れる環境が出来ている。	・月2回の内科医、歯科医の訪問診療、月1回の看護師の健康チェックがあり、職員が毎日バイタルチェックをしている。内科医と24時間医療連携体制を築いている。 ・従来のかかりつけ医へは家族が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の際に状況の報告をしている。また、看護師からも報告を受け連携が取れている。看護師と職員との情報共有が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院する際には病院側の方と話し合い、ご家族の要望を聞きながらリハビリ等どこまで行うかを確認しながら早期に退院できるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これからどうなっていくのかを医師や看護師とご家族様と一緒に話し合い、どのようにケアを行っていくのかを説明している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所方針を入居時に家族に説明し、終末期に近づいた際は家族の意向を確認し、医師と連携して適切に対応している。 ・職員は重度化や終末期の支援方法や心の持ち方について内部研修している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応など内部研修を行っている。マニュアルがありいざという時はすぐに読めるようになっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。自火報などの使い方・消火器の設置場所の確認をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含み年2回避難訓練を行っている。消防署員が立会い、水消火器使用方法や避難方法についてアドバイスを受けている。 ・水、食料の3日分備蓄と防災用品をリスト管理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害、感染症に対するBCP(業務維持計画)を今年度末までに確立することが期待されます。 ・水、食料の備蓄と防災用品のリスト管理表を倉庫扉に掲示することが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを考慮した声かけを行っている。言葉遣いや話し方などを考慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人格を尊重し、声のかけ方、名前の呼び方等に注意を払っている。 ・プライバシーに関する書類は書庫に施錠保管し、事業所外では利用者に関する話題は禁止している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の希望や思いを感じ取れるようにしている。声かけで分かった情報は職員同士で共有している。自己決定できるように声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムを尊重しレクレーションなどの声かけはご自身で選んでもらえるようにしながら参加していただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや髭剃り等定期的に行っている。洗顔ケアなど声かけ・介助にて行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリで食材の下ごしらえ等手伝ってもらっている。食後の食器拭きを一緒に行っている。クリスマスなどイベントの際にはいつもと違ったメニューにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材を近隣スーパーで求め、利用者にあった調理(刻み、とろみ等)をしている。行事食、季節の料理を提供している。 ・利用者は調理の音や香りを楽しみ、準備、後片付けに参加している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のほかに1日3回配茶があり、水分量の確保をしている。その方にあった食事形態（刻み・ミキサー）で召し上がっていただき栄養状態の確保をしている。水分がうまく取れない方は寒天やとろみを使用して水分量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ・見守り・介助にて毎食後歯磨きを行っている。口腔内の状態を確認している。訪問歯科を利用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をつけ一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促せるよう声かけ・誘導をしている。	・排泄チェック表に基づき個人別に適宜誘導し、トイレでの排泄支援をしている。 ・夜間は巡回時に利用者の様子を確認し、必要に応じて適宜、トイレに誘導し排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し水分補給・服薬等で支援している。歩行訓練など運動していただいている。毎日の排便の確認を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	声かけにより本人の意向や体調を見ながらその時その時に合わせたタイミングで支援している。自己決定していただけるよう声かけを行い本人の希望に添えるよう行っている。	・利用者の希望を優先し、毎日、週2日、週3～4日の入浴を楽しんでいる。入浴中は職員との会話、歌を楽しんでいる。 ・入浴剤、季節の柚子湯、菖蒲湯を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や室温の調整を行い、室内の照明も調整している。本人の様子を見ながら日中も夜間眠れなくなる程度に居室にて横になっていただいている。メリハリのある生活を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋など確認し、薬の目的や副作用の確認をおこなっている。薬が変わった際は服用後の様子に注意しながら確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格・好みを考慮して生活リハやレクを行い、張り合いのある生活を送っていただけるよう支援している。イベントを行い、誕生日には好みのものを取り入れている。レクなどでご利用者様同士が関われる場面を提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、なかなか外出が難しくなっている。天気の良い日は外に出て外気欲を行っている。	・天気の良い日は外気浴を楽しんでいる。家族と近場にドライブを楽しむときもある。コロナ禍以前は近隣の公園で散歩を楽しんでいた。 ・事業所内でDVDを使い、横浜市の「ハマちゃん体操」を職員主導で行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご利用者様がお金を所持はしていないが持つことの大切さは理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれているご利用者様や手紙が届く方には返事が出来るよう支援している。ホームに親族からの電話が来た際は取り次いで話をしてもらっている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるように壁絵を一緒に作り貼っている。温度・湿度の管理を行い快適に過ごしていただけるようにしている。毎日のトイレ掃除を行っている。	・毎朝トイレ、手すりを消毒し、リビングは日中に掃除し共用空間の清潔・清掃を維持している。 ・時の推移を実感できるように季節の飾付けやカレンダー掲示をしている。利用者の様々な作品をリビングに掲示して楽しんでいる。	車椅子、杖の利用者や介護業務のために広い通路を確保する必要があります。ダイニング、通路、エレベーターホールにある介護用品等の整理整頓状況を見直し、支障なく動けるように期待します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者様と隣り合って座っていただいたり、一人でゆっくりテレビを見られたり出来る席に座っていただいたりしている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を居室においてある。（家族の写真・仏壇・使っていた家具等）本人が使いやすいように配置を考慮している。	・障子、畳の和室であり、利用者は使い慣れたベッド、机、椅子、TV、仏壇、家族写真等を配置して、居心地よい居室にしている。 ・清掃は職員が行い、季節の衣替えは職員や家族が行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行が出来るよう各所に手すりを設けている。フロアや廊下は万が一転倒した際にクッションフロアになっている。安全に自力歩行できるように障害物を置かないようにしている。			

事業所名	グループホーム港南
ユニット名	空

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念に沿ってご利用様のケアにあたりその人らしい生活が出来るよう対応している。目につくところに張り出してあり共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で参加できていない。夏祭りなどで地域の方と触れ合う機会があったが夏祭りを中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを中止しており、夏祭りなど地域の方に参加してもらっていたがそれもできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、集まることが出来ていない。情報の共有だけ紙面で行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の方と運営推進会議での情報の交換や共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	肉体的・身体的な拘束ともに行わず、研修や職員同士で工夫しながらケアに努めている。身体拘束の具体的対象を張り出してあり、理解して適切なケアを行っている。内部研修などを通して学んでおり、実践につなげている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に基づき最善の注意を払いながらケアに努めている。内部研修にて学んでいる。入浴の際は体の状況を確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で成年後見制度について学んでいるが活用するところまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様と話し合い、疑問点などわからない部分を掘り下げて聞き、納得していただいた上で契約をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際に直接要望を聞いている。意見箱を設置している。外部の相談機関など一覧が契約書に記載されている。またホーム内にも張り出してある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に常に話を聞いてもらえる状態になっている。会議や日常の中で話し合い反映できるようになっている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ間での連携がとりやすくなっている。職員の要望など話がしやすい環境がある。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過の為、外部研修については行けていないが働きながらもケアの方法をより良いものにするためにスタッフ同士で話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの為、外部との交流があまりできていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の今までの生活を聞いたり、職員に話しやすい環境作りに努めている。日常的にご利用者様とのコミュニケーションを図る時間が持てている。ご利用者様との距離感に気をつけながら話している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり、まずご利用様がどのような暮らしをしたいか、ご家族様はどのように暮らして欲しいかの聞き取りを行いサービスにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用様が話せる方であれば直接聞き取り、話せない場合でもご家族様からの聞き取りを行い、ご利用者様主体の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを見極め、洗濯物や食器拭きなど一緒に行っている。ミシンなど出来る方には縫物を手伝ってもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等でご利用者様の状態を話し、ご利用者様とご家族様・スタッフがどう対応するかを話し合っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等制限付きだが行って関係が途切れないようにしている。馴染みの美容院など家族に付き添ってもらい通っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外気浴やレクリエーションなどご利用者様同士のコミュニケーションをとれるよう工夫している。職員が間に入り、会話ができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで行っている為、契約が終了するとあまり関係が無くなってしまう。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の意向を常に聞き、傾聴し極力本人が望む生活が出来るよう支援している。自室で過ごしたいときはそのようにしていただくなど本人の生活スタイルを尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話にご利用者様の昔の話や出来事など本人から話していただけるよう会話に工夫をしている。調査票を見て今までどんな生活をしてきたかを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の様子を観察し、その日の機嫌や体調を見ながら支援している。毎日を笑顔で過ごしていただけるように本人にあった運動など個別に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプラン会議を行い、本人の様子・望まれていることなど意見を出し合いその時にあった計画を作成している。ご家族様が面会に来られた際に要望を聞いて反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記入し、共有した情報をもとに反映させている。細かな気づきなども職員間で共有し対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様からの訴えやご家族様からのニーズを聞き、その都度訪問マッサージや訪問歯科など取り入れられるものを入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護度があがりあまり散策に出かけられなくなったが、お花見など近所の公園まで出かけている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に相談できるようになっている。入所前にかかっていたところにもご家族様付き添いのもと通えるようになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子や変わったことなど看護師に報告・相談をし常にその時にあった支援が出来ている。職員と看護師の連携がスムーズに行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供をし、ご家族との話し合いも退院する際の病院側とのやり取りをしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や看護師との連携とご家族様への説明などは無しあっている。延命治療など望まれるか、いざという時はどこまで治療を行うかなどの確認をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通じて初期対応等学び、素早い対応が出来るようにしている。マニュアルがあり、確認できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格・自尊心を傷つけないよう言動に注意している。話しかけるタイミングや内容等気を配っている。その人の性格等を把握し、声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい対話の仕方や話しやすい環境づくりをしている。小さなことでもご利用者様に声をかけ希望を聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様にこまめに声かけし、本人が話しやすい環境を作り笑って過ごせるよう支援している。個人の生活ペースを把握し、その人のペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を行っている。更衣も元気だった時の好みを把握し、色合いなどを工夫している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ただ提供するだけでなく、匂いや作っている過程を見ていただいたりできる作業を手伝ってもらっている。職員と一緒に食事を行い、会話を楽しみながらバランスよく摂取してもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を確認し、取れていない際は補助食品などで補っている。食事・水分を十分に摂っていただけるよう声かけし対応している。配茶を数回提供している。嗜好や嚥下の状態を確認し、状態を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の状態に合わせて歯ブラシやスポンジブラシを使い分け対応している。食前に口腔体操を行い、食後は口腔ケアへの誘導を促している。義歯は毎晩消毒している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様一人一人の排泄パターンを把握していることで安全安心に排泄介助が出来るようにしている。その時の様子を見ながら誘導の回数を増やしたりすることでトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂っていただいたり、体を動かしていただき自力にて排泄が出来るよう取り組んでいる。服薬による調整を行い、便秘にならないよう支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様の様子を見ながら入浴の声かけを行い、入浴中も楽しめるような会話を提供している。一人一人のペースやタイミングを計り気持ちよく入浴していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った寝具を使用し、室温調整を行っている。定期的にリネンの洗濯を行っている。寝返りが打てない方には体位交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などで効能や副作用を確認している。処方が変わった際は処方箋や医師に効能や副作用を確認し、服薬した際は様子の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションだけでなく生活リハビリなどご利用者の気分や性格を見ながら支援している。季節感を感じてもらえるように季節ごとに行事を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿っての外出はなかなか難しいがご家族付き添いの元美容室や友人に会いに行ってもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持はしていないが、個人的に欲するものについては職員が代わりに購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの手紙が来た際はご利用者様に手渡し、読んでもらっている。携帯電話を所持している方は自由に使用してもらっている。使い方がわからなくなってきたときは説明している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度の調整を行っている。イベントの際には飾りつけをし、季節に合った飾りにしている。毎日の清掃を行い、清潔を保つようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が話ができるよう声かけし、会話が弾むように気を配っている。リラックスして過ごせるように座る位置に気を付けている。個々の好まれる位置を把握している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や今まで使用していたものを置くことで自分の部屋という認識してもらっている。ご利用者様の希望を聞きながらものを配置し、危険がないか確認している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりがあり、転倒の危険を減らしながら自ら歩けるようにしている。動作線上にものを置かないようにしている。トイレ内も手すりなど掴まれるようにしてある。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム港南

作成日 令和5年11月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	16	BCPの計画作成がまだ出来ていない。水や食料の備蓄と防災用のリスト管理表を倉庫扉に掲示する	BCP作成する。備蓄のリストは作成してあるので見やすいように掲示する。	リストの掲示を行う。BCP作成に必要な研修及び有識者による助言を受けながら作成を行う。	1か月
2	22	車いす・杖の利用者や介護業務のために広い通路を確保する必要があるが物がおいてある。	通路やホールの用品の整頓し、支障なく動けるようにする。	ホールにおいてある物品を倉庫に移動する。移動の際に邪魔になる物品を移動する。	即日
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。